

宇部市行財政改革推進計画



新しい行財政改革に向けて

～ありたい姿を目指す未来志向の行財政改革～

本市では、昭和61年3月に宇部市行政改革大綱を策定以降、不断の取組として、計画的に経費の削減や事務の効率化に取り組むなど、積極的に行財政改革を推進してきました。

近年では、平成26年度から平成29年度までの4年間を計画期間とした「第二次宇部市行財政改革加速化プラン」において、自主財源の確保に取り組むとともに財政健全化のための改革を実施して、約45億2900万円の効果額を創出しました。

続く平成30年度から令和3年度までの「宇部市行政サービス改革推進計画（第三次宇部市行財政改革加速化プラン）」においては、従来型の経費削減という視点をステップアップし、持続性のある行財政運営と適切な公共サービスの提供の両立を目指した改革に取り組んできたところです。

しかしながら、人口減少に歯止めがかからない中で、生産年齢人口の減少に伴う税収減など、「ヒト・モノ・カネ」である行政資源の更なる減少が見込まれます。また、ポストコロナなどの社会情勢の変化や価値観の多様化、ライフスタイルの変化等により市民ニーズは多様化しており、地域課題や市民ニーズと市が対応できることとの間にギャップが生まれることが懸念されます。

このような状況において、第五次宇部市総合計画に掲げる「ひとが輝き交流ひろがる わたしたちの宇部（まち）」の実現に向けて、各施策・事業を展開するため、「宇部市行財政改革推進計画」を策定しました。

CONTENTS

UBE CITY OFFICE

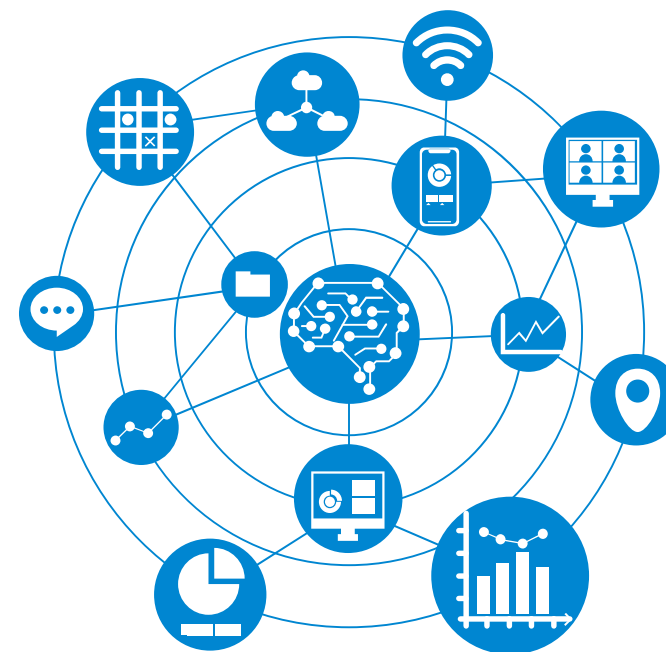
ADMINISTRATIVE AND FINANCIAL REFORM PLAN

目次

宇部市

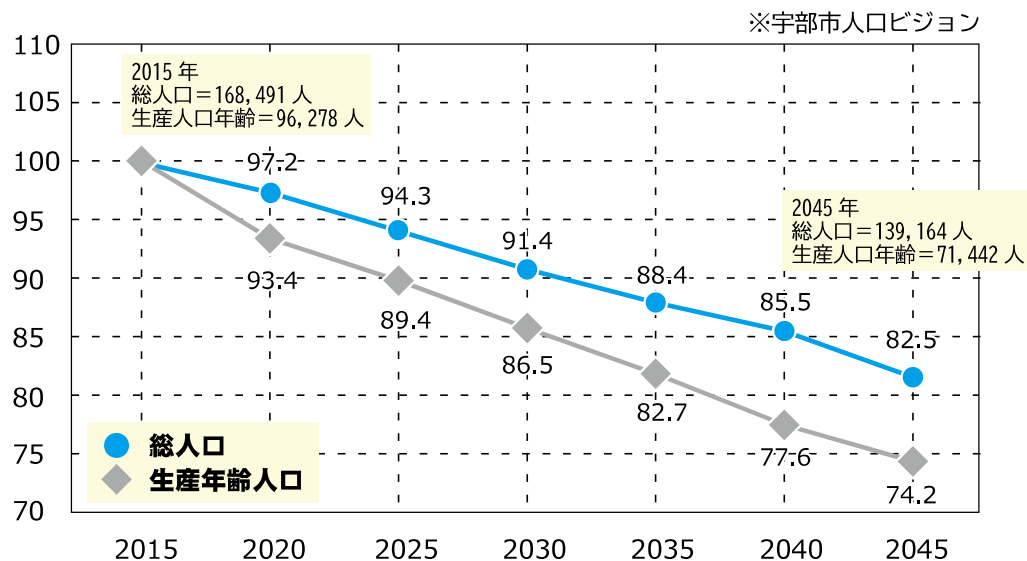
行財政改革推進計画

新しい行財政改革に向けて	02
目次	03
宇部市の現状と課題	04
これまでの行財政改革	06
計画の位置付け	07
これからの行財政改革	09
計画の推進（基本方針・戦略）	12
計画の体系	13
推進体制	14



宇部市の現状と課題

- 人口動向及び需給ギャップ -



人口動向

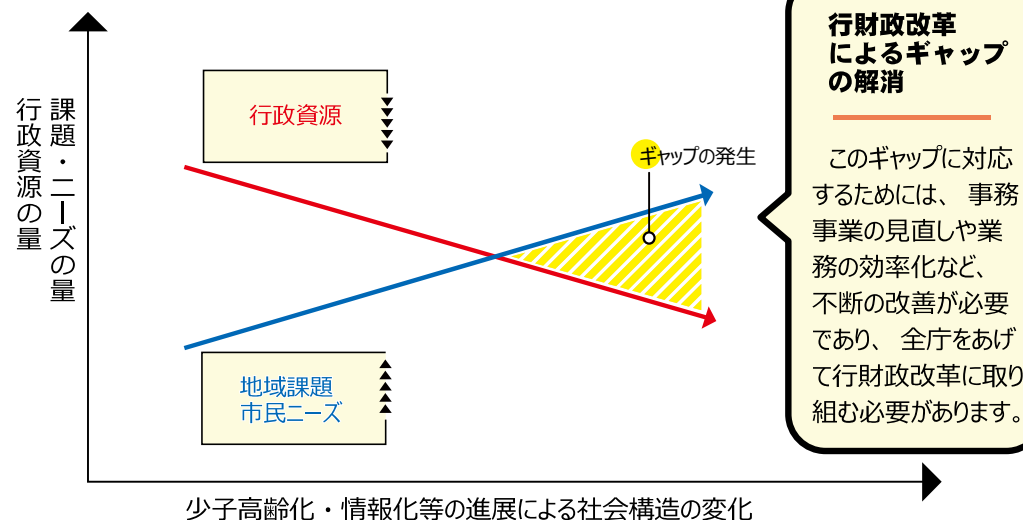
2015年を100とした場合の総人口の割合は、30年後（2045年）までに2割近く減少が続くと予想されます。

生産年齢人口が減少することにより、経済活動の縮小による市税収入の減少が見込まれるとともに、高齢化による社会保障関係経費の増加が予測されます。

ニーズと資源の需給ギャップ

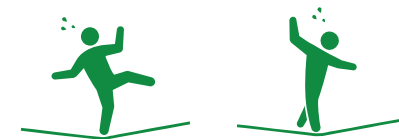
少子高齢化や一人暮らし世帯の増加、ライフスタイルの変化等により、地域課題や市民ニーズは多様化しています。

一方で、市が活用できる行政資源は様々な制約を受けるため、地域課題・市民ニーズと市が対応できることの間にギャップが生まれることになります。

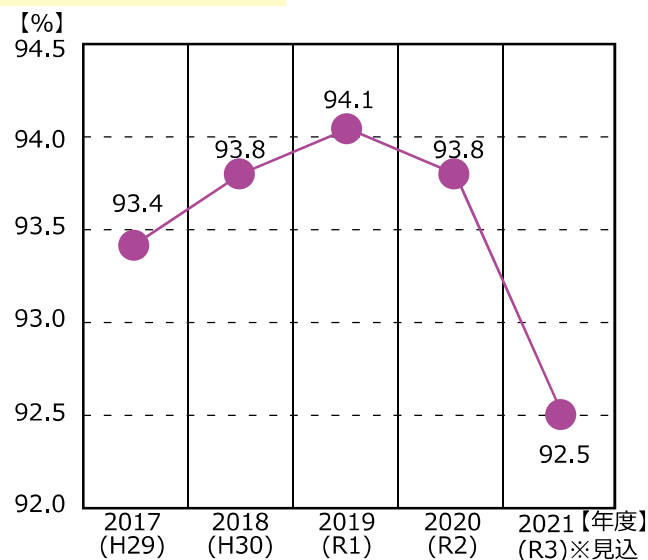


宇部市の現状と課題

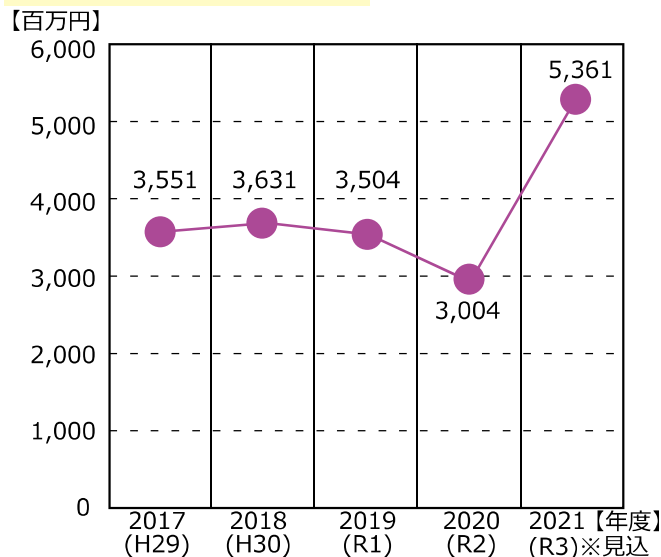
- 財政状況 -



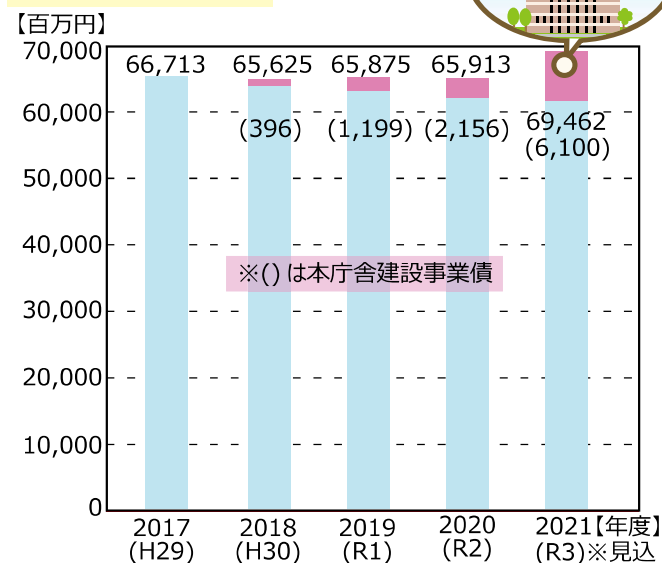
経常収支比率推移



財政調整基金残高推移



地方債残高推移



財政状況

財政の弾力性を示す経常収支比率は一般的には 70%～80% が適正水準といわれています。本市では行財政改革に取り組んでいるものの、依然として高止まりの状況が続いています。

また、本庁舎の建替えに伴う地方債発行により地方債残高は急激に増える中で、財政状況は予断を許さない状況にあります。

将来推計

今後の歳出需要や、公共施設の老朽化による整備費の増加等により、財政調整基金の更なる取り崩しや、地方債の発行を行わなければならない可能性があります。

複雑化、高度化する地域課題や市民ニーズに対応するため、限られた行政資源を効果的・効率的に運用する事が必要です。

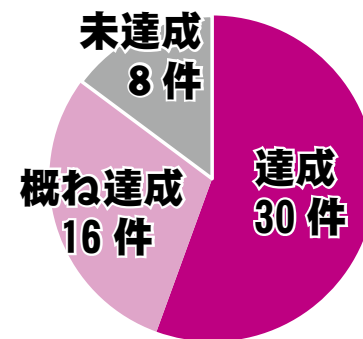
これまでの行財政改革

宇部市行政サービス改革推進計画（第三次宇部市行財政改革加速化プラン）の検証

平成30年度（2018年度）からの宇部市行政サービス改革推進計画（第三次宇部市行財政改革加速化プラン）では、持続性のある行財政運営と適切な公共サービスの提供の両立を目指し、住民サービスの利便性向上に向けた「サービス改革」、市民や民間事業者等との「連携・協働・共創改革」及び、働き方改革や人材育成等を通じた「マネジメント改革」の3つを改革の柱として取り組んできました。この3つの改革の柱を取組方針とし、実施項目ごとに目標を設定し、計画的な進捗を図りました。

令和2年度（2020年度）の実績値として、全54項目のうち、「達成（達成率100%以上）」は30項目、「概ね達成（達成率75%以上100%未満）」は16項目、「未達成（達成率75%未満）」は8項目となっており、「達成」と「概ね達成」を合わせた割合は約85%となっています。

	達成	概ね達成	未達成	合 計
サービス改革	7	2	3	12
連携・協働・共創改革	14	7	2	23
マネジメント改革	9	7	3	19
合 計	30	16	8	54



前計画では、行政サービスの向上を主眼として取り組み、市の行政全般の改革を図り、このような成果をあげてきました。

一方で、各種サービスの改善など、行財政改革としての効果がわかりづらい項目も含まれる計画となった面もありました。

本計画は、従来より続く行財政改革の不断の取組を継続する中で、「限られた予算の中で、施策・事業を効率的・効果的に行うための仕組づくり」という視点に基づいてこの改革を進めていきます。

計画の位置付け

－ 総合計画との整合 －



本計画は、本市の最上位計画である「第五次宇部市総合計画 前期実行計画」に掲げる施策・事業を着実に展開するため、行財政改革の推進に係る個別計画として策定します。



基本目標 1
活力に満ちた
強い産業のまち

基本目標 2
未来を拓く
ひとを育むまち

基本目標 3
魅力と賑わいに
あふれるまち

基本目標 4
誰もが健康で
自分らしく
暮らせるまち

基本目標 5
安心・安全で
快適に
暮らせるまち

構想の実現に向けて

計画の推進に向けて

(1) 効果的な行政運営システムの構築

(2) 健全な財政運営の推進

(3) 共創によるまちづくりの推進

実行計画
計画期間

前期実行計画
令和 4 年度～令和 8 年度

2022 ▶ 2026

後期実行計画
令和 9 年度～令和 13 年度

2027 ▶ 2031

一体的な推進

一体的な推進

行財政改革の取り組み

宇部市行財政改革推進計画 令和 4 年度～令和 8 年度
2022 ▶▶ 2026

未来を見据えたさらなる改革へ 令和 9 年度～令和 13 年度
2027 ▶▶ 2031

計画の位置付け

～ありたい姿を目指す未来志向の行財政改革～



第五次宇部市総合計画前期実行計画との整合を図り、計画期間、目標、方針を以下のとおりとします。

◆ 計画期間（5年間）

Planning period

令和4年度（2022年度）から
令和8年度（2026年度）まで

◆ 計画目標

Planning goal

限られた行政資源で最大の政策効果を
発揮すること

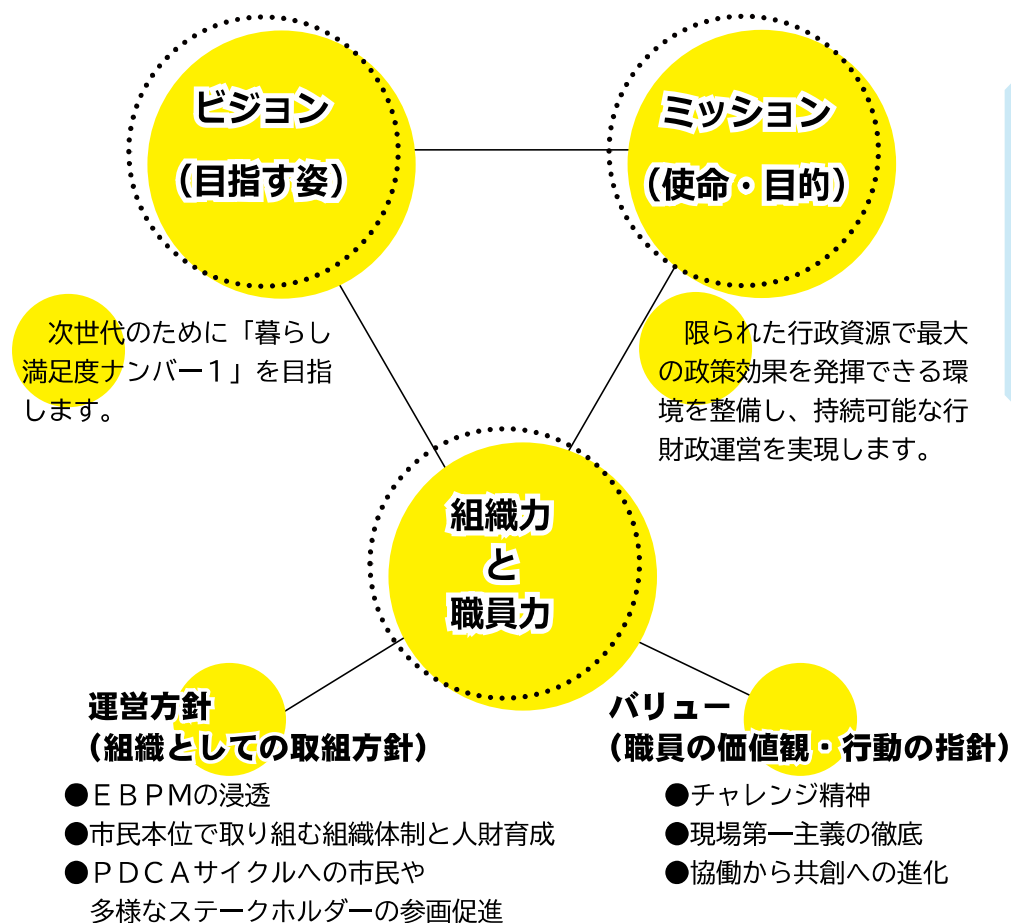
◆ 基本方針

Basic policy

- 行政資源の適切なコントロール
- 政策効果の向上

本計画における改革の理念と運営方針、職員の取り組むべき方向性は以下のとおりとします。

◆ 改革の理念と運営方針



これからの行財政改革

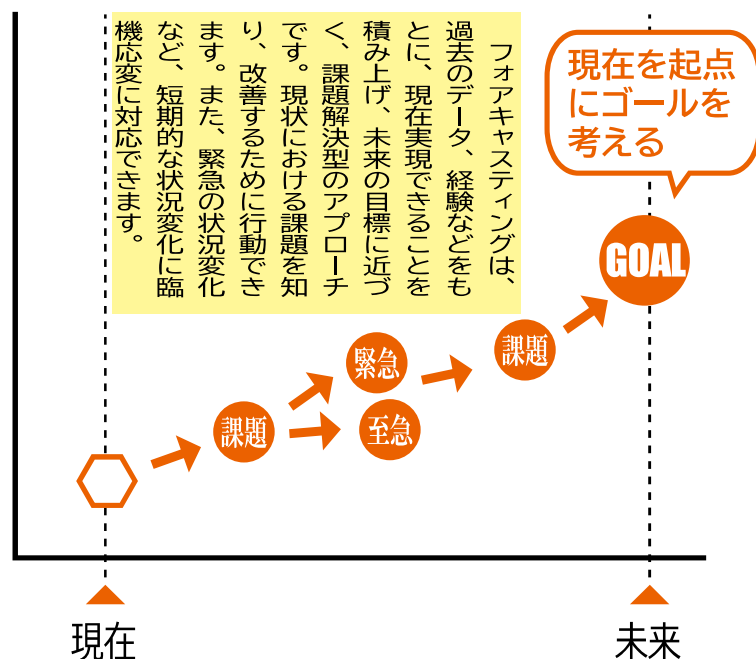
状況に合わせた課題解決へのアプローチ

本計画では、過去の実績や経験、目の前の状況により課題を設定し、「今」を起点として取り組んでいく課題解決型 (Forecasting) のアプローチに加えて、未来のあるべき姿をイメージしてそのあるべき姿を達成させるために、今やるべきことを考えていく目標達成型 (Backcasting) のアプローチにも取り組んでいきます。

F o r e c a s t i n g

【課題解決型】アプローチ

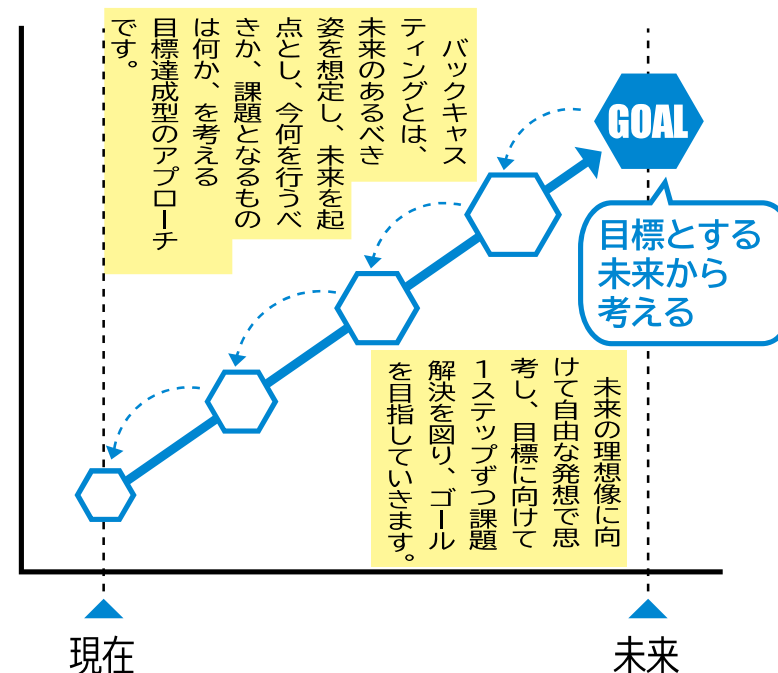
過去の実績、経験を活かして現状を改善



B a c k c a s t i n g

【目標達成型】アプローチ

ゴールを明確にし、新しいアイデアを活用



それぞれの特性に合わせて、アプローチを使い分けていきます。

これからの行財政改革

EBPM(エビデンスに基づく政策立案)の推進

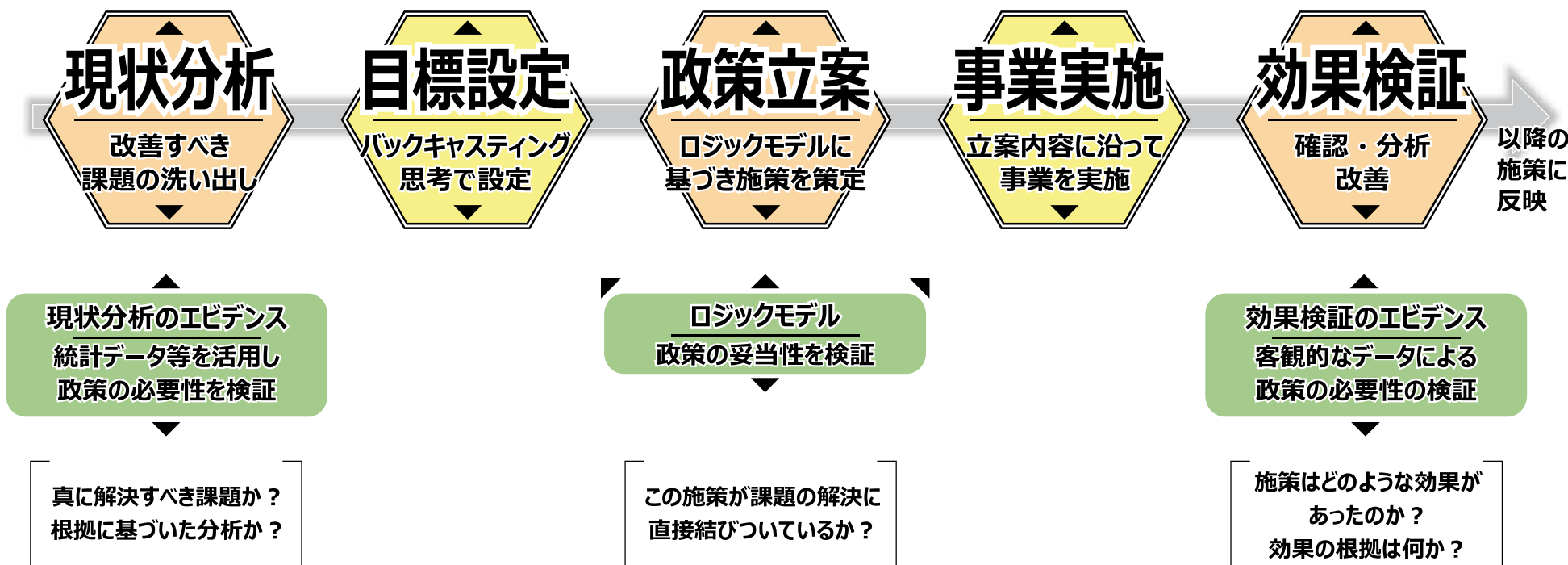
未来のあるべき姿に向けて、EBPM(エビデンスに基づく政策立案)を積極的に導入していきます。
統計データ等を用いて、ロジックを踏まえた分析、意思決定が行われるような、政策の質を向上させます。また、エビデンス(根拠)を踏まえた検証、政策手段の弾力的な見直しが行われ、政策プロセスの中でEBPMの考え方が自然と行われる組織を目指します。

※「エビデンス(evidence)に基づく」とは、勘や経験や思い込みにより意思決定するのではなく、客観的データを適切に分析した結果に基づいて意思決定を行う考え方です。

EBPMの考え方

Evidence-Based Policy Making

EBPMは、政策目的を明確化にして、その目的のためより効果が上がる政策手段(施策)は何かなど、政策の基本的な枠組みをエビデンス(根拠)に基づいて検証する取り組みです。



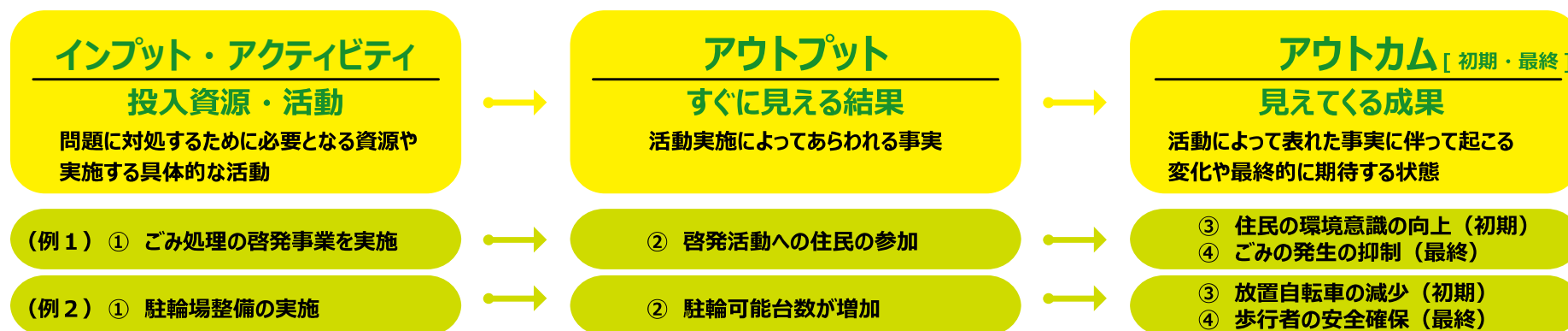
これからの行財政改革

ロジックモデルの作成・活用によるEBPMの実践

ロジックモデルとは、ある施策・事業がその政策目的を達成するに至るまでの論理的な因果関係を明示したものです。実施される事業（インプット）、事業活動によりすぐに見える結果（アウトプット）、事業の成果（アウトカム）につながるまでの因果関係を図式化し、事業が成果に結びつく取組であるかを検証することで、効果的・効率的な事業体系を構築していきます。

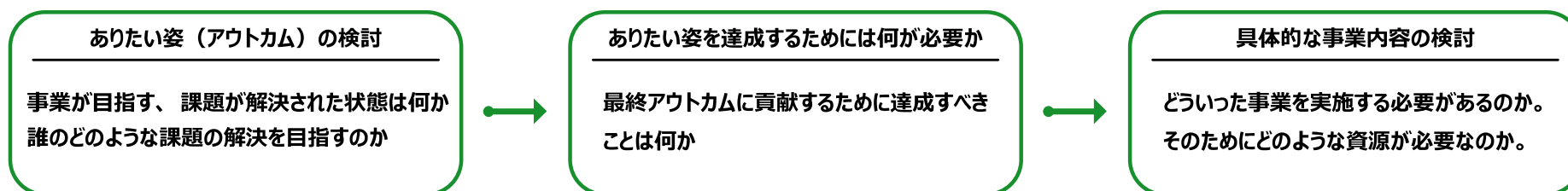
ロジックモデルの構成

下に記載のロジックモデルは、あくまで抽象的なイメージを示した参考事例です。



ロジックモデルの作成

将来を起点として、現在にさかのぼるバックカスティングにより、ロジックモデルを作成します。



ロジックモデルの検証

ロジックモデルは論理的に考えて作成した「仮説」であるため、事業効果の検証を行い積極的に見直しを行っていきます。



計画の推進（基本方針・戦略）

限られた行政資源で最大の政策効果を発揮する

「行政資源」と「政策効果」に関する2つの基本方針のもと、7つの戦略を掲げ、行財政改革を推進します。
具体的な取組として、戦略に基づくアクションプランを作成し、ゴールを定めて進捗管理を行います。

基本方針 1

行政資源の適切なコントロール

行政サービスを継続的かつ安定的に提供するため、規律ある財政運営や公共施設の計画的な更新統廃合、業務の改善・効率化などを進めていきます。

また、職員のモチベーションと能力向上のために、働き方や職場風土の改革を進めるとともに、人材育成に積極的に取り組みます。

戦略 1：収納対策と財源の確保

戦略 2：持続可能な行財政運営

戦略 3：資産の有効活用

戦略 4：職場環境の整備

基本方針 2

政策効果の向上

効果的な行政運営システムを構築するため、時代やニーズに対応した組織及び人員体制をすすめるとともにE B P MやD Xを推進し、効率化を図ります。また、共創によるまちづくりを進めるとともに、多様な主体と一緒に意見を出し合える機会の創出をすすめていきます。

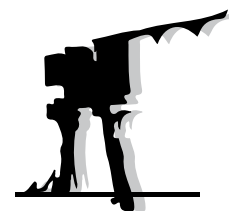
戦略 5：政策実施体制の強化

戦略 6：デジタル化の推進

戦略 7：広報・広聴活動の強化

計画の体系

基本方針 / 戦略 / アクションプラン



基本方針	戦略	アクションプラン	アウトカム(アクションプランにより目指す姿)
方針1 行政資源の 適切なコントロール	1 収納対策と財源の確保	01 未収債権の発生防止・適正な対応	市民負担の公平性の担保と、持続性ある財政基盤の強化
		02 ふるさと納税等自主財源の獲得推進	新たな歳入の確保と、市プロジェクトへの民間活力の導入
	2 持続可能な行財政運営	03 未来投資のための事務事業の見直し	未来志向の投資サイクルを構築し、効率的な行財政運営を実施
		04 規律ある財政運営の実施	中長期視点に立った健全で持続可能な財政運営
	3 資産の有効活用	05 公共施設マネジメントの推進	安全で持続可能な公共施設運営体制を確立
	4 職場環境の整備	06 職員の定員適正化	人員体制の最適化を実現
		07 人材育成と職場風土の改革	「自ら考え、自ら行動する組織」へステップアップ
		08 職員の健康安全管理対策の推進	職員の健康増進により、仕事のパフォーマンスを向上
方針2 政策効果の向上	5 政策実施体制の強化	09 EBPMの推進	エビデンス(合理的根拠)に基づいて政策効果の高い事業を実施
		10 多様な主体との連携・共創	「共創」により事業を効果的に進め、地域課題の解決へ寄与
	6 デジタル化の推進	11 庁内業務のデジタル化	デジタルワークスタイルの確立により、行政事務を効率化
		12 窓口サービスの効率化	利用者の利便性向上と行政事務の効率化
	7 広報・広聴活動の強化	13 積極的な広報活動の推進	市政情報のわかりやすい発信と、イメージアップ・認知度の向上
		14 広聴機能の充実	市民からの意見等を市政に反映し、共創のまちづくりを実現



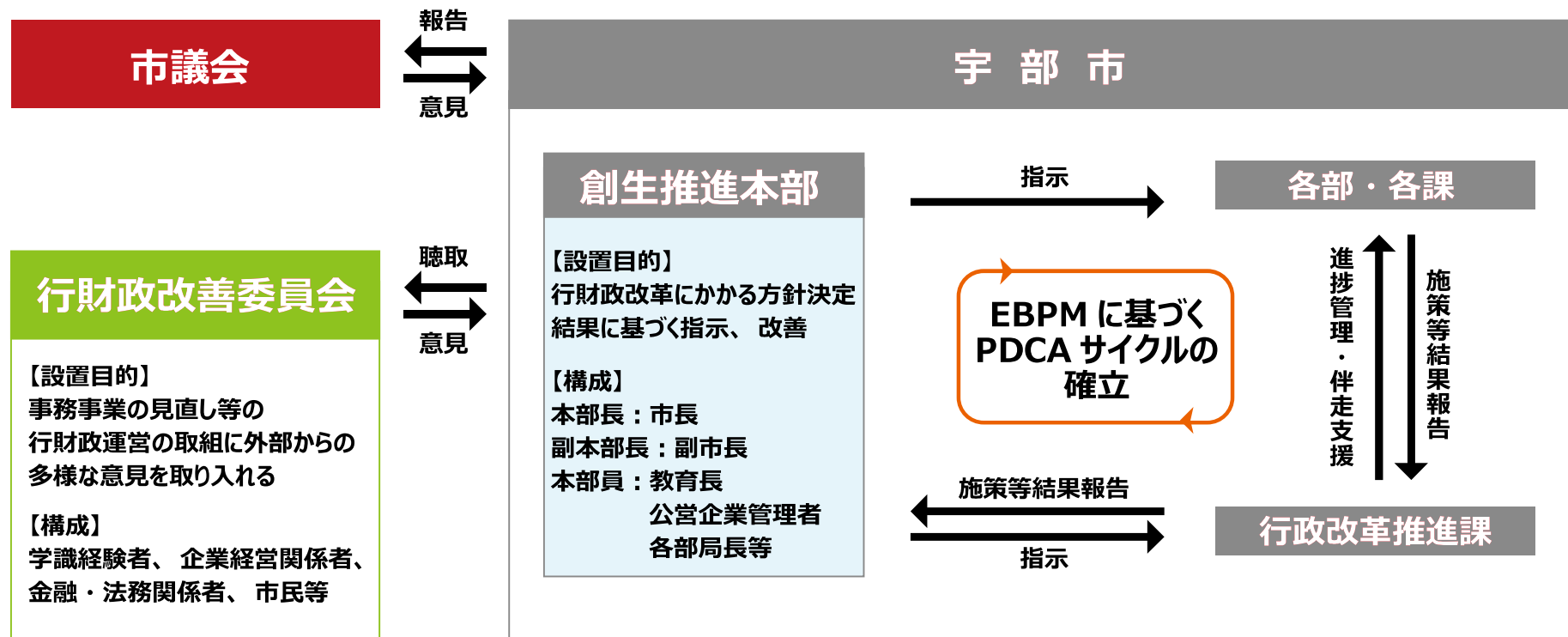
推進体制

- 検証を今後の取組に活かす体制の確立 -

本計画の推進にあたっては、アクションプランとデータ等に基づく検証及び見直しによる「EBPMに基づくPDCAサイクルの確立」により、実効性を高めていきます。

また、市長を本部長とする宇部市創生推進本部を中心として、行政改革推進課と各部・各課が協調して施策事業の進捗を図るとともに、市議会や外部委員会からの意見も聞きながら、検証結果を共有してその効果や見直し内容を翌年度以降の取組に活かしていきます。

各年度の取組結果については、市ウェブサイト等により市民に公表します。





宇部市行財政改革推進計画

令和4年3月発行

宇部市政策広報室行政改革推進課

〒 755-0801 山口県宇部市常盤町一丁目7番1号

TEL 0836-34-8890

FAX 0836-22-6063

Email gyoukaku@city.ube.yamaguchi.jp